

テーマ1 男性の子育て参画の推進について

〔提案理由〕

- ・中期行財政運営ビジョンでは、「子育て満足度日本一を目指す大分県」を政策目標に掲げ、取組の柱の一つである「ワーク・ライフ・バランスの推進」において、「男性の子育て参画日本一」を目指している。
- ・本県の未就学児童のいる男性の家事・育児時間は、1日当たり36分で、全国平均の56分を大きく下回っている。(総務省：平成18年社会生活基本調査)
- ・男性の子育て参画は、女性の育児負担を軽減し、女性の就業継続や子どもを生みたいと言う気持ちを高めるとともに、子どもの健全な育ちにもつながることから、その推進が求められている。

〔県民の声〕

- ・母親が育児を楽しみと思えるためには、父親の家事・育児参加が必要不可欠。
- ・父親が育児に関わると子どもの自己肯定感が高まるなど、父親には重要な役割がある。
- ・子どもを朝早くから夜遅くまで預けっぱなしで働いていて、心豊かな子どもが育つだろうか……。
- ・仕事と子育ての両立支援制度はあるが、職場の雰囲気や上司の理解がないので活用しにくい。
- ・子育てをしたいと思っている男性も、長時間労働等のためにそれができない。

〔議論のポイント〕

(1) 本県の男性の意識改革について

- ・家事・育児時間が全国平均を大きく下回っているという調査結果を踏まえ、本県女性の継続就業促進にもつながる、男性の家事や育児に携わる意識を高めるためにはどうすればよいか。

(2) 男性の働き方を改革する取組について

- ・男性の働き方を改革し、「子育てと仕事の両立ができる職場環境」を県内の中小企業で確立するために必要な方策について。

(3) 次代の親となる若い世代に向けた啓発について

- ・将来、子育てを担うこととなる子どもたちに、「男性も子育てをするのは当たり前」という意識を持たせるための方策について、意見を伺いたい。

〔議事概要〕

〔「男性の子育て参画日本一」を目指すことについて〕

- ・我々がまず考えないといけないのは、子どもにとっての最善の利益。子どもたちが、この大分県に生まれて良かったという「安心」と、若い人が生き生きと働く「活力」、そして「発展」を目指していただきたい。
- ・男女共同参画社会を推進する中、三世代子育て、協育などの視点が必要。そして、男性ももう少し協力しませんかぐらいを目指さないと。「男性の子育て参画日本一」

では、若い女性が勘違いして、育児放棄につながるのではと懸念する。

- ・親になった男性の子育てだけではなく、生んだ人、生めない人、生まない人も含め、社会全体で支える仕組みが必要。
- ・男性の家事育児時間が最下位でも、合計特殊出生率は全国7位。男性の育児参加は大事なことだが、決定的な要因とは思えない。親のことだけではなく、祖父母の存在や周りの環境など、何かあると思う。それが何か探っていけないといけない。

(両親ともに働くための環境整備)

- ・核家族化があまり進んでない大分県で、両親がともにその能力を發揮するためには、まず祖父母、そして保育園や子育て支援センター、あるいは地域の力が必要。
- ・地域に子どもを預かってもらえる場所がない。放課後児童クラブなどを増やすと言われるが、現実には預かってもらえないので、事業所での保育も考えざるを得ない。子育て中の両親がしっかりと働けるよう、安心して子どもを預かってもらえる場所を早急に整備してもらわないと、共倒れになる心配がある。
- ・経営者団体・労働団体・行政の代表者による「おおいた子育て応援共同宣言」を、県内企業に広く認知・浸透させ、積極的に各企業レベルの取組を促進して欲しい。

(男性の意識改革)

- ・人間としてお互いを思いやる気持ちが本質だが、スキルやトレーニングの不足で、うまく手を出せないこともある。家庭や学校の教育、あるいは男性向けの妊婦学級などで体験を積むと、両親による子育てが進むのではないか。
- ・どんな制度を作っても、男性が子育てを役割として本当に意識し、必要性を感じていなければ活用されない。

(子どもたちへの啓発)

- ・生命の大切さや家庭の役割は、結婚・出産前からではなく、幼児の時から継続して教える必要があり、子どもの時から日常生活力を育まなければいけない。
- ・子どもを育てていく家庭とはどういうものか、教育現場等で教えられているのか？見直していく必要があるのでは。

(その他)

- ・県職員や教師など、公務員がまず育児休暇を取り、手本を県民に示してもらいたい。
- ・子育て基金を創設し、子ども手当支給や大学までの授業料無料化など、金銭的支援も検討して欲しい。